

城北



平成 29 年 1 月 1 日現在
 総世帯数 3,538
 総人口 7,676
 男 3,658
 女 4,018

見発地区 歴史遺産に囲まれた住宅街

歴史的由来

蟻ヶ崎は市街地北西部の高山から松本城郭に至る丘陵地で、室町時代には阿礼崎と表記されたものもあります。阿礼は集落のことで、盆地を見渡す村という意味と考えられています。近年、住宅が建ち並ぶまで、この辺一帯に古墳などの遺跡が点在していました。昔は、



松本中学校屋上から



昭和 11 年撮影の松本中学

塩釜神社から鷹匠町への通りが村の中心部で、商店街も形成していました。大正時代末から塩釜神社の北や城山に住宅が増えたので昭和の初め、ほぼ今のバス通りを境に蟻ヶ崎は東西の 2 町会に分けられました。また、町の中や北部へ県企業局による宅地造成もあって住宅が急増したので

昭和 27 年に深志ヶ丘、昭和 34 年に蟻ヶ崎北町会が分離し 4 町会になりました。

歴史遺産

古墳時代の遺跡「饅頭塚」から明治時代に鉄剣や玉類が出土し、現在上野の国立博物館に収納されています。また、公民館の西隣りの「姫宮神社」は水野家の時代に編纂された『信府統記』に婦人の病に霊験あらたかと記されています。近代の建物では昭和 36 年に現在地へ移設された「旧開智学校」が国の重要文化財、昭和 10 年に建てられた「深志高校」校舎の一部と講堂は国の登録有形文化財、地蔵清水から移設された「旧司祭館」は松本市の重要文化財になっています。

町内の自主活動

かつて企画から実施まで世代を超え大勢の人が集った「運動会」などは諸事情で中止。「結の会」「自主消防組織」の奉仕活動も休止中で、活動しているクラブも僅かです。しかし、子ども会による「伝統行事」や高齢者の「だべり会」と小学生も参加する「ラジオ体操会」は有志の尽力で継続されています。

町内公民館改築

築 43 年で老朽化し、耐震化対策を迫られていましたが町内出身で大阪在住の飯ヶ浜友一郎さんの高額の寄付をきっかけに改築。平成 24 年末に完成。活動交流の拠点・元気の発信地となることが期待されます。

福祉の部会視察研修 ともに支え合う 町づくり

城北地区住みよい町づくり協議会の福祉の部会では、12 月 8 日に御代田町社会福祉協議会の空き家を利用した「地域の縁側・あさひ」の活動を見学しました。御代田町では以前から各地区の公民館などを利用して、地域の人が集まり独自に絆を深めています。「地域の縁側・あさひ」は介護を支える家族、介護を受けている人、独り暮らしや子育て中の親子など、地域で孤立しがちな人が気軽に立ち寄れる居場所づくりとして平成 26 年に開所しました。



地域の民家を活用し、地域のつながりが出来るようになることを目指していることをコーディネーターの山田さんが説明してくれました。この日は体の不自由なお年寄りも参加して「笑いヨガ」を楽しんでいました。福祉部会では今後「集い」を基本に共に支え合う町づくりを目指して認知症を介護している人から話を聞いて、理解を深め地域の見守りネットワークを広げていく取り組みを検討することになっています。

いちごの風 年末年始の風景



▲ ひろば Xmas

▼ 凧揚げ



▶ 児童館



繭玉づくり



▶ 蟻ヶ崎東

生け花講座



▶ しめ縄作り



▶ 新田町



▶ 徒士町



▶ 蟻ヶ崎台

餅つき

▼ 沢村



▶ 書初め



▶ だるま市



▶ 蟻ヶ崎北



▶ 田町公園

▶ 西町



▼ 白金

三九郎



▶ 蟻ヶ崎東・深志ヶ丘



▶ 沢村